

4

国防・外交

総合力(防衛・政治外交・経済・情報文化)を
強化して、全ての分野で日本を守る

▶今の国際社会では、認知領域(世論に影響を与えるメディア報道等の情報面)や経済領域(戦略的物資の供給制約や企業・土地等の買収などの経済面)、サイバー領域など非軍事面を含む、あらゆる領域へ侵略、攻撃する「超限戦」から先手防衛し相手国の軍事行動を抑止する必要がある。この「守らなければ侵略される」状況で、安全と繁栄は自ら確保しなければならない。

主な論点

防衛は、①日本の防衛力 ②日米同盟 ③国際連携の三本柱で進める。

自立的な防衛を確立して、対等な日米同盟と国際連携を推進する。

核保有国に囲まれた日本を守るため、厳しい国際社会の現実を踏まえ、核廃絶を長期的な目標としつつ、今の日本を守るために、核保有国に核を使わせない抑止力を持つ。

国外で活躍する日本人を守る。北朝鮮による拉致問題の早期解決を図る。

優れた情報機関で先回り対応の
「先手情報危機管理」を実現

▶現代の国際社会において、情報戦の重要性が増している。偽情報の拡散による我が国の信頼の低下や社会の分断、サイバー攻撃による重要なインフラや情報システムの破壊等、経済活動や公共サービスに深刻な影響を及ぼすリスクも考えられる。このような状況下で、情報戦への対応は国家安全保障上、極めて重要であり、サイバーセキュリティの強化、メディアリテラシー教育の推進、偽情報の迅速な検知と対策、国際的な情報共有と協力体制の構築が要となる。

主な論点

手を打つ危機対策の実現のため、インテリジェンス(諜報・防諜)能力を世界トップレベルまで向上させる。

日本版「スパイ防止法」等の制定で、経済安全保障などの観点から外国勢による日本に対する侵略的な行為や機微情報の盗取などを機動的に防止・制圧する仕組みを構築。

繰り返される情報戦(事実に基づかない日本批判)、歴史戦(誤った歴史情報)に対して、オールジャパンで先手をとって正しい情報を発信する(カウンター・プロパガンダ)。

国民が偽情報やプロパガンダを識別できるよう、教育機関や公共キャンペーンを通じて情報リテラシー教育を推進。

参政党・神谷代表「私もメロンパンを食べています」過去の数々の発信に釈明 さや氏の核武装発言には「示しがつかない」とも

参政党大解剖

参政党

2025/07/27/ 10:00

川口穰

目次



参政党神谷宗幣代表（写真映機部・松永卓也撮影）

この記事の写真をすべて見る

今回の参院選で台風の目となった参政党。東京選挙区でさや氏が2位当選するなど、選挙区で7議席、比例区でも7議席を獲得した。非改選の神谷宗幣代表を含めて参議院で15議席となり、単独での法案提出も可能になった。一方で、選挙期間の言動には強い批判があった。どう答え、国会では何をするのか——。様々な疑問を参院選の投開票日翌々日の22日、神谷代表にぶつけた。

【写真】「核武装」発言もあったさや氏や選挙中の写真はこれから

【続き】参政党・神谷代表に聞いた「日本人ファースト」の“真意”「初鹿野さんにはめっちゃめっちゃ注意しています」

* * *

「SNS規制もダメ」「内心は自由」

——参議院で15議席になったことで、与野党との交渉に影響力を発揮できるほか、単独で法案提出も可能になります。まずは何に取り組みますか。

新型コロナのパンデミック対策が正しかったのか、お金の使い方も含めて検証したいと思っています。予備費11兆円が使途不明のまま棚ざらしになっていますし、検証法案をつくって間違っていたことがあれば指摘するのがひとつ。

もうひとつはスパイ防止法です。私はいずれ米軍は（日本を）出ていくべきだという主義ですが、今は日米同盟が大事ですし、イギリスやオーストラリア、インドなどとともに中国やロシアと対峙していくのも賛成です。そうした国々と連携するためには情報管理を厳しくしなければならないですし、情報漏洩や国家機密情報を売るようなことに対しては対策を強化しなければならないと考えています。

——神谷さんは選挙戦中、「極端な思想の人たちは（公務員を）やめてもらわないといけない。これを洗い出すのがスパイ防止法」と発言しています。国家機密漏洩対策を超え、思想統制に踏み出そうとしているのではありませんか。

これは言葉足らずでした。思想の統制は考えていません。国家転覆やクーデターの企てには対処しなければならないし、今も破壊活動防止法などがありますけれど、もう少しその枠を広げて、つくる必要があるという趣旨です。外国がやっているくらいの基準のもので、特段、踏み出すようなものではありません。思想チェックには私はむしろ反対。SNS規制もダメだと言っているんです。内心は自由ですし、そこまで国家権力が踏み込むのはディストピアでしょう。そんなことを言ったら、私なんて監視対象になっちゃいますよ。

思想統制に踏み込むつもりはないという神谷氏。しかし、この取材が行われた22日、参政党が開いた記者会見から、同党に対して批判的な論調だった神奈川新聞の記者が退出を求められたという。同新聞は23日、参政党に対して「知る権利をないがしろにする行為」などとする抗議文を提出した。一方参政党は、この記者の選挙中の取材を「妨害行為」とし、「入場をお断りした」と公式サイトで説明した。

次のページ [さや氏の発言への見解は？](#)